

図画工作科事例3 指導と評価の一体化を意識した「鑑賞」の実践事例

題材名 「○○がいっしょ」はど～れだ？

第3学年 B鑑賞(1)ア, 共通事項(1)アイ

1 題材の目標

共通点に着目したクイズ作りを通して、身近にある美術作品を自分らしい見方や感じ方で味わおうとするとともに、クイズを互いに出し合うことで、様々な見方や感じ方があることを知り、美術作品のよさや面白さを感じ取る。



2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 ※本題材では表現の活動がないため、「技能」に当たる評価規準は設定していない。	・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、アートカードを鑑賞する活動を通して、造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・クイズを作ったり、友だちのクイズを解いたりしながら、進んで鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

3 題材について

児童が主体的に美術作品と向き合い、自分なりの見方や感じ方を広げることが出来るように、アートカードを活用した鑑賞の題材を設定した。授業では、作品をよく見て「形」「色」「感じ」といった図画工作科の[共通事項]に着目させていく。そのための具体的な手立てとして、2点のアートカードの共通点からクイズを考えるという課題を与え、児童が自由に感じたり考えたりすることができる授業づくりを行う。クイズを考えたり、クイズに答えたりする活動を通して、作品のよさや面白さを感じ取ったり、作品の見方や感じ方を広げたりしてほしい。

4 指導と評価の計画

段階	主な学習活動	指導上の留意点と評価
導入 15分	1 アートカードにふれる。 ・提示されたアートカードをよく見て、そこから感じられるものを、形や色に着目して話し合う。 「季節はいつだろう？」 「どんな音がきこえてくるかな？」 2 本時のめあてと活動について知る。 「いっしょ」を見つけて、クイズをつくろう！	・鑑賞の視点を与えることで、作品の細かい部分まで見つめることができるようにする。 ・感じ方は人それぞれ異なるということを全体で確認する。 ・カードの扱い方について全体で確認する。 【主体的に学習に取り組む態度】

